

## 平成31年 3月期 第74期 業績概要 第1四半期

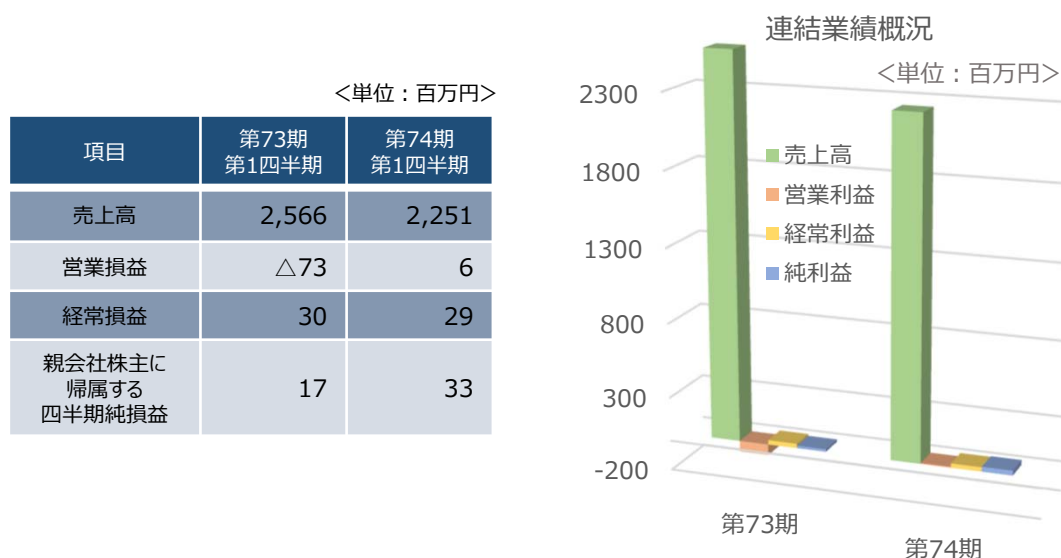
桂川電機株式会社

当第1四半期連結累計期間（平成30年4月～平成30年6月）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が続いてまいりましたが、実質賃金の伸び悩みから個人消費の回復は力強さに欠け、原油価格の上昇や海外の政治・経済の動向にも懸念があるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

世界経済は、米中間の貿易を巡る緊張の高まりや欧州の政局不安、中東情勢などの地政学リスク、新興国の景気減速など、世界経済全体としては引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、国内及び海外での企業間価格競争の激化は依然として続いておりますが、これ以上の売上高減少を食い止めるべく北米や欧州の販売戦略を強化し、2018/5/30-6/2 中国・広州『CERAMICS CHINA 2018』、2018/6/1-6/2 福岡国際センター『2018九州印刷情報産業展』に出展などにより、潜在的な顧客層に対する大判型カラープリンターニーズを掘り起こすための活動を展開しており、将来にも向けた売上げの向上と利益の確保を目指してまいりました。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、前年同四半期に比べ3億15百万円減収の22億51百万円となりました。営業利益は、売上げの減収が大きく影響しましたが、原価低減に向け台湾工場での製品の生産比率を増やし、材料調達コストの削減等に努め、販売費及び一般管理費も前年同四半期に比べ低減出来たこと等から、6百万円の利益（前年同四半期は73百万円の損失）となりました。経常利益は、為替差益17百万円を計上したこと等により、29百万円の利益（前年同四半期は30百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、33百万円の利益（前年同四半期は17百万円の利益）となりました。



国内におきましてもこれまで以上に潜在的な大判型カラープリンターのニーズの掘り起しを目指し、『2018九州印刷情報産業展(福岡国際センター)』(2018/6/1-6/2)、『国際総合印刷展IGAS2018(東京ビッグサイト)』(2018/7/26-7/31)に出展いたしました。大判型カラープリンター-KIP800シリーズ及びKIP900シリーズを出展、たくさんのご来場者より好評をいただきました。



KIP900シリーズ



IGAS2018当社ブース

各国よりたくさんのご来場をいただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今後成長が見込める新たな分野として、従来より開発を進めてきました食器やタイルなどセラミック用途向けデカールプリンター(KIP DDP480)を中国最大のセラミック展示会である『セラミックチャイナ2018(広州)』(2018/5/30-6/2)に昨年に引き続き出展いたしました。『国際総合印刷展IGAS2018(東京ビッグサイト)』(2018/7/26-7/31)にも出展し、たくさんのご来場者より好評をいただきました。



今年度は当社が従来より展開している市場に加え、今後成長が見込める新たな分野として、従来より開発を進めてきましたセラミック用途向けデカールプリンター、スポーツユニフォームなどアパレル産業向け昇華転写捺染用カラープリンター、交通標識等向けの反射素材用特殊UVインクジェットプリンター、等にも注力し従来製品とあわせた売上の向上と利益の確保を目指しております。